

令和2年度 学校評価総括表 伊丹市立天神川小学校

教育目標		命輝き 笑顔あふれる 天神川小学校 一心豊かで意欲的に学び合う子どもの育成						
重点目標		(1)安心・安全に学習ができる環境づくり (2)学力の向上と指導力の向上 (3)社会規範意識の向上を図る生徒指導の徹底 (4)一人ひとりの居場所がある学級集団づくり (5)健やかな心と健やかな体づくり (6)家庭・地域・関係機関との連携						
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価	
学力の向上	基礎・基本の徹底と授業改善	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎的、基本的な知識・技能を習得する ○学習指導の工夫・改善 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字・計算の繰り返し学習を実施することにより、基礎・基本の定着を図る。 ・教材と関連した作品や様々な分野の本を紹介し、読書への意欲を高め、読書活動の充実を図る。 ・どの教科においても書く活動を取り入れることで、学力の定着をはかる。 ・授業にペア学習やグループ学習を取り入れる。 ・学習にみんなが主体的に参加できるための場づくりについて模索する。 ・「めあて」と「ふりかえり」を取り入れ、見通しを持って学習に取り組み、学びの成果を可視化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎基本の定着を図るための繰り返し学習に関するアンケートの項目において、「あてはまる」と回答した教職員が90%以上。 ・書く活動に関するアンケート項目において、「あてはまる」と回答した教職員が90%以上。 ・わかりやすい授業づくりに関するアンケート項目において、「あてはまる」と回答した児童・保護者・教職員が85%以上。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート項目において90%が「あてはまる」と回答。さらに向上するよう取り組んでいく。 ・アンケート項目において94%が「あてはまる」と回答。十分に書く活動を意識できている。 ・アンケート項目において児童83.7%、教職員83%だった。(保護者は項目から削除)いずれも、85%に達していない。 ・コロナ禍において、ペア活動やグループ学習の時間が減ってしまった。 ・校内研究において、みんなが参加できる学びの場づくりを意識した授業作りができた。 ・めあてを意識した授業作りが行われたが、めあてとふりかえりが一体化できていないことが課題。また、授業の中で、ふりかえりの時間がしっかり確保できないことも課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の朝学習での繰り返し学習や家庭学習を継続し、基礎基本の定着につなげる。 ・校内研究や授業コンサルティングから学習指導の改善に取り組み、分かる授業づくりにつなげる。 ・今後は、「伝え合い」の目的を明確にして、より質の高い話し合いの場を設定していくことで深い学びにつながっていくと考える。 ・ふりかえりでの子どもの姿をイメージしながら「めあて」を作っていく。また、子どものふりかえりから始まる授業作りを研究していく。それが、子どもにとって、分かりやすい授業につながる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・宿題だけでなく、予習・復習も家庭で見えあげられるようにできれば良い。
	特別支援教育の推進、充実	<ul style="list-style-type: none"> ○計画的・組織的な支援体制の整備 ○個別の指導計画の作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・共に生き、共に学ぶ力を育て合う仲間作りの実現を図る。 ・子どもや保護者の思い・願いを受け止めながら支援する。 ・関係諸機関と連携を取りながら、通級指導、巡回相談やコンサルテーションを有効的に活用し、支援の必要な児童への理解を深め、支援方法を充実させる。 ・支援が必要な児童については校内委員会で情報を共有し、職員全体へ共通理解を促していく。必要に応じてケース会議を開く。 ・合理的配慮をふまえた個別の指導計画を作成し、サポートファイルステップぐんぐんや校内支援ファイルを通して、継続的な支援を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な子どもの特性を共通理解する研修を年に1回行う。 ・教職員の評価アンケート「校内支援委員会が効果的に機能している」と回答する割合が90%以上になる。 ・教職員の評価アンケート「個別の指導計画に基づき一人一人の教育的ニーズに応じた指導に努めている」と回答する割合が85%以上になる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中のため、例年とは異なる形での研修ではあったが、児童についての研修を3回、スキルアップ研修会をPC上で1回実施した。児童の実態を把握し、学校全体で関わる先生方が増えた。 ・教職員の評価アンケート「校内支援委員会が効果的に機能している」と回答する割合が94%であった。 ・部会の中で情報交換を行い、児童についての共通理解ができた。 ・転籍・進学に関して話し合いが必要な児童について、段階を追って協議するため、早めに保護者と話をしていく必要がある。 ・教職員の評価アンケート「個別の指導計画に基づき一人一人の教育的ニーズに応じた指導に努めている」と回答する割合が94%であった。 ・前後期に個別の指導計画を立て、支援方法を精査することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・効果的な支援方法を共有し、共通理解をしながら更に意識を高めていく。 ・研修内容の取り上げ方を元に、職員のスキルも高まるような内容を精査していく。 ・校内教育支援委員会で、児童にとってふさわしい進路、在籍を考えていくため、早めの行動や校内への見学などを行い、今後も保護者と連携していく。 ・RPDCAサイクルを確立するため、児童と保護者のニーズと実態把握を元に、個別の指導計画の見直し・加筆などを行い、より充実した指導計画を目指す。次年度の引き継ぎにも活用していく。 ・サポートファイルの取り扱いについて全職員に周知していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の健康チェックの受付をした際、特別支援学級児童の保護者対応を間近で見え、その丁寧さに感心した。

令和2年度 学校評価総括表 伊丹市立天神川小学校

教育目標		命輝き 笑顔あふれる 天神川小学校 一心豊かで意欲的に学び合う子どもの育成					
重点目標		(1)安心・安全に学習ができる環境づくり (2)学力の向上と指導力の向上 (3)社会規範意識の向上を図る生徒指導の徹底 (4)一人ひとりの居場所がある学級集団づくり (5)健やかな心と健やかな体づくり (6)家庭・地域・関係機関との連携					
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価
問題行動への指導・対応	○児童理解のための研修会の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・部会や研修会で児童の情報を共有して理解を深めると共に、指導力の向上を目指す。 ・学級担任だけでなく、学年全体・学校全体で天小の児童に関わっていく。 ・生徒指導担当同士の連絡体制など、中学校とも連携を図る。 ・多様化する事案に対応できるよう、部会等で問題行動等について共通理解を行う。 ・「いじめ対策基本方針」について、改めて共通理解を図る。 ・「いじめアンケート」調査を実施し、適切な対応を図る。 ・不登校傾向にある児童の家庭と連携を図り、関係機関につないでいく。 ・不登校傾向にある児童のために別室を開設する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月1回、生活指導部会を開き情報交換を行う。 ・年度初めは学校全体で関わっていくべき児童の共通理解のために、年度終わりには取り組みの確認や次年度の引継ぎのために、研修会を開く。 ・部会ごとに違ったテーマで研修会を行う。 ・いじめ対策委員会を必要に応じて開き、すべてのいじめ案件について対策を考える。 ・不登校傾向にある家庭と連携し、すべての長期欠席の児童を何らかの関係機関につなく。 ・別室を開設し、職員を配置する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・月に1回部会を開いて気になる児童の情報・いじめや問題行動・不登校について共有することができた。また特別支援部会で扱う児童と生活指導部会で扱う児童の分けを明確にし、同一の児童についてはどちらかの部会でより深い議論ができるよう体制を整えることができた。 ・部会ごとに「不登校への対応」「起立性調節障害」「新型コロナウイルス感染症に対するストレスへのケア」「ネットトラブル」等テーマを決めてミニ研修会を行い、職員の生徒指導の感度を高めることができた。 ・いじめを積極的に認知するとともに、すべてのいじめ案件について解決ないし一定の方向性を見ることができている。 ・連絡のとりづらいう不登校児童の家庭について、ケース会議を行い、関係機関の支援を得ることができた。一方で、学校との連絡はなかなか取れないままの家庭もあった。 ・関係機関との窓口を一本化したことで、情報共有や連絡調整が迅速に行えるようになった。 ・別室を開設し、ほぼすべての時間に職員を配置した。8名の児童が利用した。教室と別室をオンライン会議システムでつなぐことで学力保障を行い、教室復帰を目指すことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童や研修内容等の情報の共有を効率化し、短時間で必要な情報の交流が行えるよう、部会の開催方法を工夫していく。 ・いじめの定義に照らしたいじめの積極的認知と、いじめを許さない風土づくりについて、継続的に指導していく。 ・関係機関の連絡調整に努め、SSWを活用しながら不登校児童への支援を行っていく。 ・別室の運営については子どもサポーターや学習支援員など人的配置が不可欠であるが、本校の職員一人一人がどの子も取りこぼさない姿勢をさらに強くもつことが何より大切である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・荒中校区で不登校問題が一番深刻。 ・民生児童委員に、学校からの情報はあまり入らない。 ・不登校の児童に関わると、明るい面を感じる。 ・ミマモルメの欠席・遅刻連絡システムはとても効果的。保護者も移動中に連絡を入れることができる。 ・ミマモルメの欠席・遅刻連絡システムは、天神川小でサンプルができていないので、公費でできないか。
	○生徒指導体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・生活目標や生活のきまりを守るように、日頃からの声かけや学級や全校集会で児童に指導する。 ・学年会や部会などで、児童の生活の様子について振り返る機会を持ち、全教職員の意識を高める。 ・問題行動発生時の緊急連絡体制や日常の連絡・相談体制を見える化し、生徒指導体制の強化をはかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケート「先生たちは、友だちと一緒に生活するためのきまりについて教えてくれている」と回答する割合が90%以上になる。 ・教職員アンケート「問題行動が起きた時、組織的に対応できる体制が整っている」と回答する割合が90%以上になる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケート「先生たちは、友だちと一緒に生活するためのきまりについて教えてくれている」の回答割合は97%と、昨年度の84.1%より大幅に向上した。特にコロナ禍にあって集団生活を行う上でのルールづくりが浸透したものと考えられる。 ・教職員アンケート「問題行動が起きた時、組織的に対応できる体制が整っている」は昨年度に引き続き肯定的な評価が100%であった。トランシーバーを活用した連絡体制などの手だては今後とも続けていきたい。 ・本年度は昨年度に引き続き生徒指導加配がついたため、生徒指導上有益な情報を収集・分析したり、いじめ問題行動など緊急事態がおこったときに柔軟に対応したりすることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き日頃からの呼びかけを徹底する。本年度はコロナのため集まることはできなかったが、始業式や終業式の話工夫して子どもの心に残る指導を行う。 ・問題行動発生時の対応については適宜見直しを行う。また安全部との連携を効果的に行う。 	
豊かな心・健やかな体							

令和2年度 学校評価総括表 伊丹市立天神川小学校

教育目標		命輝き 笑顔あふれる 天神川小学校 ー心豊かで 意欲的に学び合う子どもの育成ー					
重点目標		(1)安心・安全に学習ができる環境づくり (2)学力の向上と指導力の向上 (3)社会規範意識の向上を図る生徒指導の徹底 (4)一人ひとりの居場所がある学級集団づくり (5)健やかな心と健やかな体づくり (6)家庭・地域・関係機関との連携					
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価
規範意識の向上	○親切・思いやりの心を持つ子どもの育成 ～礼儀正しい子どもの育成～	<ul style="list-style-type: none"> 学校や地域社会の実態を踏まえ、道徳科の年間指導計画の作成に当たり、全体計画に示した重点的な指導が反映されるように配慮する。 主に教科用図書を中心とした年間指導計画をもとに授業して評価を行う。 必要に応じて年間指導計画を改定する。 道徳研修会で評価の視点を検討する。 評価を見通した授業に取り組んでいく。 毎時間の学習の振り返りを記録している「道徳ノート」や発言・態度から児童の成長を認め、励ます評価文を目指す。 特別活動(学級活動や児童会活動)や生徒指導との連携で取り組んでいく。子どもたちの取り組みとして、児童会活動の呼びかけを学級活動に取り入れていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケート「先生や友だちにあいさつをしている」と回答する割合が70%以上になる。また、「自分を大切にすることや、他人への思いやりについて教えてくれる」と回答する割合が80%以上になる。 2月末に各学年の年間指導計画を見直す。 部会で評価の視点を検討して、各学年別の4つの内容項目での評価文例を作成する。 「道徳ノート」に自分とのかかわりで道徳的価値をとらえた記録文が書けるようになる。 児童会の朝のあいさつ運動を学級活動に取り組み気持ちのよい学級環境を作る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケート「先生や友だちにあいさつをしている。」と回答する割合が73.1%であった。また、「自分を大切にすることや、他人への思いやりについて教えてくれる」と回答する割合が97.0%以上になった。 前学年の指導計画の見直しを参考にすることができた。 評価の視点を4つにすることで、児童の振り返りや記録をもとに評価文が書けた。 各学年の評価文例を残すことで児童の実態や評価の書き方の参考になった。 道徳ノートだけではなくワークシートを作成して、児童の記録を工夫された。 「あいさつしてももどってこないことが多い。」ことやあいさつを自分から進んでする児童が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケート「先生や友だちにあいさつをしている。」と回答する割合が73.1%であった。昨年より児童の意識は上がっている。3学期のはじめに、始業式や学級会活動の中でも重点を置いて指導できた。また、児童会の子どもたちが自主的に校門に立ちあいさつを呼びかけてくれた。 児童の実態にあった教材を選び、礼儀やマナーに関することやがまんする心や他人への親切・思いやりの心の向上をはかる。教材研究の時間の確保等 特別活動として、学級会活動や児童会活動を有効に生かせる場の工夫が必要になる。例えば、「1分間あいさつタイム」を学級で実施するなど 	

令和2年度 学校評価総括表 伊丹市立天神川小学校							
教育目標		命輝き 笑顔あふれる 天神川小学校 ー心豊かで 意欲的に学び合う子どもの育成ー					
重点目標		(1)安心・安全に学習ができる環境づくり (2)学力の向上と指導力の向上 (3)社会規範意識の向上を図る生徒指導の徹底 (4)一人ひとりの居場所がある学級集団づくり (5)健やかな心と健やかな体づくり (6)家庭・地域・関係機関との連携					
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価
豊かな心・健やかな体	〇体力づくり	・児童の実態に即した指導方法を検討していく。	・単元ごとに学年内で教材研究を深め、児童の実態に応じた場の設定や教材の選択をする。		・コロナウイルスの感染状況に応じた授業構成ができた。 ・それぞれの学年が打ち合わせた上で、クラス間での差がない単元構成が練られていた。それにより、クラス間での「指導した」「指導していない」等の差がなくなっている。 ・緊急事態宣言による長期休暇や感染予防対策で、児童の運動不足が課題になった。 ・体育大会が実施できず、各学年で運動イベントを行った。 ・今後の体育大会について検討し、行事の中での表現の中止と午前中開催が決定した。	・体育や休み時間で、感染対策をした上での運動を積極的に児童に呼びかける。 ・教職員間での意識統一と、児童・保護者・地域への理解を得る。	・親子で縄跳びをしている姿を見かけることがある。 ・縄跳びはジャンピングボードを使うと二重跳びができるようになるので、SC21で作成してみようかなと思う。 ・SC21では体力測定の器具を助成金で購入したので使ってもらいたい。
	体力の向上	・新型コロナウイルス感染症に対応した手洗い・咳エチケット・換気の徹底・マスク着用・免疫力を高めるため十分な睡眠と適度な運動やバランスのとれた食事を心がけるなどの基本的な感染症対策を整備する。 ・環境衛生を良好に保つ。 ・心のケアに努める。	・新型コロナウイルス感染症について積極的に情報収集をし、対策をとる。 ・常に変化する新しい情報に基づいて、感染対策必要物品を整える。 ・学校の新しい生活様式に沿って、「天小っ子スクールライフ」の動画を作成し「マスクをする」「くっつかない」「手を洗う」「換気をする」に焦点をあて、分散登校1日目に一斉指導を行う。 ・マスクが用意できない児童のために、職員がマスクを作成したり、ボランティアによるマスクの寄付の呼びかけを行う。 ・教職員、スクールサポートスタッフによる行内消毒を徹底する。 ・健康観察のチェック体制を学校全体で取り組む。 ・トランシーバーでの体調不調者連絡や第二保健室の体制づくりなど保健室の利用体制を整える。 ・例年以上に熱中症予防対策を行う。 ・感染症対策を徹底した健康診断を実施する。 ・感染対策をより徹底するために、すべての蛇口に一つのハンドソープを設置をし、すべての教室に手指用消毒液を設置する。 ・保健学習カリキュラムを整備し、保健学習と性教育を行うとともに、月経指導を行う。	・児童アンケート「学校は、健康の大切さについて保健の授業や「保健だより」などで指導している。」についてA(よくあてはまる)またはB(ややあてはまる)と回答する割合が80%以上になる。 ・保護者アンケート「学校は、健康の大切さについて保健の授業や「保健だより」などで指導している。」についてA(よくあてはまる)またはB(ややあてはまる)と回答する割合が80%以上になる。 ・教職員アンケート「学校は、健康の大切さについて保健の授業や「保健だより」などで指導している。」についてA(よくあてはまる)またはB(ややあてはまる)と回答する割合が80%以上になる。	A	・今年度は、新型コロナウイルス感染症により長期にわたる臨時休業から始まり、分散登校、学校再開以降も新しい学校生活の様式など情報も刻々と変化する中で、学校組織一丸となって、臨機応変に手を取り合って力を合わせて対応してきた。 ・児童、保護者、教職員ともにアンケートにおいてA(よくあてはまる)またはB(ややあてはまる)と回答する割合が80%以上であった。(児童82.8%、保護者96.7%、教職員91.2%)	・国の動向を注視し、ガイドラインに基づき、天小の実態に即した感染対策を常に協議しながら組織全体で感染対策を進めていく。

令和2年度 学校評価総括表 伊丹市立天神川小学校								
教育目標		命輝き 笑顔あふれる 天神川小学校 一心豊かで意欲的に学び合う子どもの育成						
重点目標		(1)安心・安全に学習ができる環境づくり (2)学力の向上と指導力の向上 (3)社会規範意識の向上を図る生徒指導の徹底 (4)一人ひとりの居場所がある学級集団づくり (5)健やかな心と健やかな体づくり (6)家庭・地域・関係機関との連携						
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価	
学校情報の積極的な発信	○参観授業の実施	・コロナ禍の中で、感染防止対策をしながら参観してもらえるよう計画し、2学期より、学期に1回の参観を実施する。	・年2回の授業参観を実施し、安心して参観してもらえるように計画する。	B	今年度は、コロナ禍の影響で、年2回予定していた授業参観が1回のみとなった。行事等も中止したものが多く、保護者に参観してもらえる回数が少なかった。	来年度も、コロナの感染状況等を考慮しながら、出来る範囲で、授業参観を実施していく。		
	○ホームページの整備、学校だよりなど地域への公開	・ホームページで学校の情報を発信する。 ・多くの職員がホームページの更新作業に関わることができるよう、マニュアルを作成する等環境の整備を行う。	・各学年の活動の様子を月1回以上を目安に更新する。また、児童の活動の様子について、ホームページを通じて学校外へ発信する。 ・学校からの連絡をホームページで知らせる。 ・HP更新マニュアルの作成と更新の啓発	C	・ホームページ更新に関するアンケート項目について「あてはまる」と回答した教職員は53%であった。コロナ禍により、予定していた行事が中止になったり、個人情報保護のためホームページに掲載する写真の精選に苦慮したためと考えられる。 ・コロナ感染症予防による臨時休校時において、ポスティングの日時や、各学年からの課題のお知らせを連絡することができた。また、警報発令時の自宅待機のお知らせなどホームページ上で素早く連絡することができた。 ・更新のマニュアルを作成し、各学年に配布することができた。 ・更新の頻度が少ない所には声かけなどの啓発を行い、更新を促すことができた。	・年度初めにHPに掲載する写真をどの程度まで掲載するか共通理解する。月1回以上を目安に、個人情報に努めながら、よりよいホームページづくりを目指していく。 ・来年度も継続して、学校からの連絡を素早く保護者や地域の人々に伝えていくようにする。 ・来年度、ホームページが刷新されるため、新しい更新のマニュアルを作成しつつ、ホームページの更新の啓発に努めていきたい。	・ミマメルメの一斉メールで、連絡は行き届いている。 ・PTAでは、広報部を一番最初に廃止した。これは、子どもの写真を掲載できないことが理由だった。子どもの姿ではなく、大人として何をしたのかを発信していかなければと思う。 ・PTAの配布文書は、天神川小HPのPTAの部屋にアップしてもらい、ミマメルメでURLを配信してもらうことで、ペーパーレス化が進んでいる。	
開かれ信頼される学校園	危機管理体制	○安全教育の取り組みと避難訓練の実施	・各種危機管理マニュアルの作成。 ・避難訓練の実施。 ・コロナ感染症対策を考慮しながら実施 ・定期的な安全点検や登下校指導。 ・事故防止、交通安全の啓発。 ・台風などで警報発令時の通学路・校舎内外の安全点検の実施	・避難訓練、防犯訓練、緊急時下校訓練を年間各1回ずつ実施し、教職員・児童共に緊急時の適切な対応について理解し、身につける。 ・毎月(年10回)、各クラスで項目ごとに安全点検を行いながら、安全で安心な教育環境を整える。行う。 ・校門での登校指導、年7回の下校指導を行う。 引き継ぎノートを活用し、通学路の安全についてや、児童の登下校の様子について指導を行う。 ・学校周辺の事故の連絡などを行い、児童に危機意識を持たせる。 ・警報が発令された際、職員全体で安全点検の箇所を割り振り、児童の登校時・登校後の安全で安心な教育環境を整える。	B	・計画通り年3回の訓練を行うことができた。 ・防犯訓練の実施で、不審者が侵入してきた時の身の守り方を児童が確認できた。 ・教師の動き方の確認や、道具の使い方を確認することができた。 ・毎月安全点検を行い、その都度修繕することができ、教育環境を整えることができた。 ・新型コロナウイルスの影響で、登校指導・下校指導が計画通り行うことができなかった。 ・台風などで警報発令時の通学路・校舎内外の安全点検の実施	・様々な事案に対応できるよう、訓練の内容を見直していく。 ・職員研修の内容を検討していく。 ・自転車の安全な乗り方について、継続的に指導を行っていく。 ・安全マニュアルの周知や、有事の際の対応の共通理解を丁寧に図る。	
		○校内の安全点検	・日常的な学習活動の際の安全確保。 ・毎月、定例の安全点検の実施とその修繕	・項目ごとに安全点検を行いながら、安全で安心な教育環境を整える。	A	・安全点検で、毎月破損しているところや危険な場所を早めに見つけることが出来、修繕できた。 ・来年度も定期的な安全点検を行う。		

令和2年度 学校評価総括表 伊丹市立天神川小学校							
教育目標		命輝き 笑顔あふれる 天神川小学校 ー心豊かで 意欲的に学び合う子どもの育成ー					
重点目標		(1)安心・安全に学習ができる環境づくり (2)学力の向上と指導力の向上 (3)社会規範意識の向上を図る生徒指導の徹底 (4)一人ひとりの居場所がある学級集団づくり (5)健やかな心と健やかな体づくり (6)家庭・地域・関係機関との連携					
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価
教育環境の整備	○学校教育環境充実のための取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃用具の点検・充実。 ・清掃用具の見直し。 ・学期末、清掃週間(きれいにしましょう)実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃用具の定期的な点検と補充等を行う。 ・用具の正しい使い方の指導を行う。 ・壊れたままの清掃用具を無くしたり、用途に合った清掃道具を揃える。 ・清掃週間を設定して、普段行き届かない箇所にも重点的に取り組むことができる。 ・清掃活動を通して、気持ちよく生活できる教育環境が維持できるように啓発活動を行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃場所にあった清掃道具の見直しを行い、点検や補充を行った。 ・壊れたままの清掃用具を無くしたり清掃道具の補充や使いやすい物を購入したりすることができた。 ・長期休み前には、普段掃除の行き届かない箇所を計画的に取り組むことができた。 ・下足場所の清掃は、天候によっては、かなりの土がある。そのため限られた人数での清掃は難しい。また、西下足室は扉が一つしかない、換気が十分にできない中での清掃は大変である、などの反省がでている。 ・今年度は、新型コロナのため、子どもたちによるトイレ清掃は中止になった。保護者やいろいろな方に清掃をお任せすることができた。トイレに固まった尿石がなかなかとれないということで、洗剤を購入し使用した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃用具の修理や見直しを行い、常にきれいな清掃道具が使えるような環境を整えていながら、清掃・整備を継続して行う。 ・教師も一緒に、限られた時間であるが、日々の清掃を丁寧に行う。 ・清掃週間などを設定して、徹底しにくいところなどの清掃の大切さも伝え実施する。 ・各学年でも、子どもたちへの声かけや教師による清掃を行う必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールサポートスタッフがトイレをきれいにしてくれているので、衛生面は保たれている。 ・PTA主催の植木剪定がコロナで中止になったが、技能員さんが一人で植木剪定を頑張ってくれた。

令和2年度 学校評価総括表 伊丹市立天神川小学校									
教育目標		命輝き 笑顔あふれる 天神川小学校 一心豊かで意欲的に学び合う子どもの育成							
重点目標		(1)安心・安全に学習ができる環境づくり (2)学力の向上と指導力の向上 (3)社会規範意識の向上を図る生徒指導の徹底 (4)一人ひとりの居場所がある学級集団づくり (5)健やかな心と健やかな体づくり (6)家庭・地域・関係機関との連携							
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価		
教職員の 資質向上	教職員の 研修の 充実	○授業の質を高める授業研究	・校内研修として年1回以上、授業を公開する機会を持つ。 ・授業の質を高めるための研修、研究の充実を図る。	・全教員が年1回以上、授業を公開する。 ・講師の先生によるその時々の課題をテーマにした講演を行う。 ・全学年1回の研究授業と、随時スキルアップ研修を行う。 ・県や市の研修のお知らせを各担当から積極的に行う。 ・授業力アップシートを1ヶ月に1回配布し、自分の授業を振り返る機会を設ける。 ・全授業で「めあて」を確認し、「ふりかえり」の時間を確保する。	B	・コロナ禍の中、授業公開の仕方を模索しながら取り組み、全職員が1度ずつ授業を公開を行うことができた。また、教職員アンケートの「授業研究会など授業や学級を公開による児童理解」に関する項目で、ややあてはまる以上と回答した教職員は、97%であった。授業公開することで、授業の質を互いに切磋琢磨していけると考える。しかし、あてはまると回答した教員が38%と少ないことが課題である。 ・昨年同様に授業コンサルティングにより先輩教員から指導を仰ぎ、授業スキルを磨くことができた。また、講師の先生に講演を行い、教師に必要な力や今求められている課題について共通認識できた。 ・スキルアップ研修については、集めて行うことが難しく、開くことができなかった。 ・授業アップシートを行うことで、授業作りで意識してほしい点を共有することができた。 ・授業の初めに「めあて」終わりに「ふりかえり」の時間を確保した授業が定着している。また、教職員だけでなく、児童においてもめあてを意識しながら、授業を学ぼうとしている。しかし、「めあて」が活動内容になっていることも多く、ふりかえりとの連携ができていない。今後は、児童が「めあて」に対して思考が深められるようなめあてを考えていく必要がある。	・今年度延期した市内発表が行われる。研究が進めている授業作りを5月初旬に共通理解していく。公開学年、公開する教科を年度当初に決め、単元と単元を関連させた授業作りを努めていく。週末の学年会議の中で、教材についての話を行う時間を設定し、教材研究を行う。 ・授業コンサルティングを続け、スキルを磨いていく。また、公開の仕方を考えながら、互いに見聞きし合える環境作りを仕組んでいく。 ・スキルアップ研修については、少人数に分けるなどの工夫をしながら、積極的に取り組んでいきたい。 ・来年度の研究のサブテーマを変更し、「めあて」と「ふりかえり」をより意識した授業づくりを研究していく。	・デジタル化はコロナ禍においてかなり進んだ。若い先生が中心となって、どんどん活用されていくのではないかと。	
		○全職員の学校教育目標達成に向けた参画	・学校教育目標に向けたPDCAサイクルに基づいた教育活動を実施する。 ・新学習システムを児童の実態に応じて円滑に運営する。	・学校教育目標に関するアンケート項目について「あてはまる」と、回答した教職員が、85%以上になる。 ・教育課程の編成に関する「あてはまる」と、回答した教職員が85%以上になる。	B	・学校教育目標に関するアンケート項目について「あてはまる」と回答した教職員は77%だった。コロナ禍の影響で予定していた行事や授業参観の中止などが、昨年度より低い原因と考えられる。 ・スズキ校務を活用して、年間の反省をアンケートで集約し、各部会の反省に生かすことができた。 ・今年度は、コロナ禍の影響でアンケート未実施。 ・コロナ対応をしながら、本校の現状を踏まえた教育課程を編成し、実施することができた。	・今後も教育課程部と研究推進・生活指導が連携し、現状を踏まえた学校教育活動を実施する。 ・来年度も各部会の反省に生かせるように実施していく。 ・ことば科がなくなり、総合的な学習の時間が増えるため、カリキュラムの再編成を行う。	・あいさつは、子どもに言う前に、まず先生からするのが良い。	
学校の現状を踏まえた教育課程・組織運営	校務分掌等の連携	○一人一役の校務分掌・職場の同僚性	○学校教育活動における課題や果たすべき役割を互いに共有化し、連携して学校教育活動を実践する。 ○部会を活用し、担当者だけの負担にならないよう分担していく。	○校務分掌に関するアンケート項目において、「あてはまる」と回答した教職員が85%以上である。	B	・校務分掌に関するアンケート項目において、「あてはまる」と回答した教職員が78%で、85%を達成できなかった。 ・近年、校務分掌の仕事量の偏りを4分の1の教職員が感じている。 ・教職員の業務改善が喫緊の課題である中、教職員構成に見合った校務分掌担当のあり方や業務内容、業務の割り振り等の見直しを図ることが求められている。	・教職員定数の増加に期待できない中、特定の業務担当に負担が集中しないよう、これまで以上に部会等での役割分担や複数体制などを更に進めたり、前年度の引継ぎの参考として作られている各部の活動歴を活用しながら、それぞれの業務負担の軽減に取り組んでいく。 ・来年度も、全職員で協力しながら、組織で動いていく。	・民間では、下積み期間があるのに、教員は大卒でいきなり学級担任が任される。学級がうまくいかず、倒れてしまう教員も少なくない。教科担任制を低学年から初めて良いと思う。 ・TVで、学級担任をなくす学校が紹介されていた。それぞれの先生が得意なことを生かして、チームで動くのが良いと思った。	
		【学校関係者評価総括】 ・学校運営協議会が発信でテント下の朝の見守りや健康カードのチェックを行うことができた。 ・今年度は、行事がほとんど中止や延期となったが、子どもたちと先生方のために、情報を共有しながら学校生活を支援していきたい。							
【次年度に向けた重点的な改善点】 ・来年度も引き続き、児童が「学校は楽しい、勉強はよくわかる」と笑顔で答えることができるような取り組みを進める。 ・職員集団・保護者・地域・学校運営協議会が天小チームとして、学校運営を行っていく。 ・本年度の課題を丁寧に分析し、方策を立て課題解決にあたっていく。(不登校・学習保障・情報の発信等)									